

表23-2 成務、仲哀の年次表の解説

2009/10/07 改訂
2009/06/30 by marishi

記載値		復元値	記事、年月日解説結果
西暦	年次		
130	60庚午	358	358年戊午、景行崩御
131	1辛未	359	359年己未、成務元年31歳。仲哀立太子31歳→仲哀誕生1歳
132	2壬申	360	
133	3癸酉	361	
134	4甲戌	362	
135	5乙亥	363	
136	6丙子*	364	
137	7丁丑*		記事なし。(364年、神功紀百濟、倭への道を尋ねる)
～	～		
177	47*		
178	48戊午	365	仲哀立太子31歳→359年へ移行[380年52歳を基準、31歳359年]
179	49*		記事なし 7年減年(合計48年)
～	～		
185	55*		
186	56丙寅*	366	記事なし。(366年、神功紀、卓淳国へ使いを遣わす) 記事なし。(367年、神功紀、百濟と新羅、倭へ朝貢する) 記事なし 記事なし。(369年、神功紀、荒田別に新羅を撃たせる) 370年庚午、成務崩御42歳、在位12年【書記崩年干支と一致】
187	57丁卯*	367	
188	58戊辰*	368	
189	59己巳*	369	
190	60庚午	370	
191	空位辛未	371	
192	1壬申	372	372年壬申、仲哀即位元年、14歳。(372年、神功紀、七枝刀を賜る) 記事なし 記事なし。(375年、神功紀、百濟、近肖古王没) 記事なし。(376年、神功紀、百濟、貴須王位に就く) 記事なし 記事なし 記事なし 380年庚辰、仲哀崩御22歳、在位9年【書記崩年干支と一致】 381年辛巳、応神即位元年
193	2	373	
194	3*	374	
195	4*	375	
196	5*	376	
197	6*	377	
198	7*	378	
199	8	379	
200	9庚辰	380	
270	1庚寅	381	

注1) *印は「記事なし」を示す。

注2) 「合成年次表」では、成務60年次が371年となり、在位13年である。

上記復元では、在位12年とし、371年を空位年として扱っている点が異なる。

また、上記復元は、次項注3)の干支の関係を重視した。

注3) 日本書紀記載の成務崩御年、空位年、仲哀即位年、仲哀崩御年の干支は、復元でも一致している。

記載年代と復元年代は、干支で3周り、180年、異なるためである。

注4) 「成務48年次、仲哀立太子31歳」は日本書紀に記載された内容である。

上記の記載を基づくと仲哀崩御は53歳となり、記載の崩御52歳と1年狂う。空位年が後付けされたとみる。

380年のとき52歳とすると、359年に31歳で立太子年となる。ここで誕生年と読み替えると、

372年14歳で即位、380年22歳で崩御となる。

注5) 神功紀に記された百濟関係の外交記事を120年加算し、成務と仲哀に戻すと、記事なしの年が埋まる。